

第5期 事業報告

事業記録

日 付	内 容	事業主体等	担当
4月1～4日	鹿児島県野間池ヒゲナガエビ漁による生物採集	自主研究	岩瀬
4月13日	第3回環境創造・生物共生型港湾整備方策検討委員会（沖縄・那覇）	(財)沿岸開発技術 研究センター	岩瀬
4月25日	CURRENT 16号発行	自主事業	
5月23日	愛媛大学 講師派遣（ウミガメの解剖）		田中
5月24日	大月町立榎西小学校 講師派遣		中地
5月24～27日	大月町造礁サンゴ相調査 （串本海中公園センター 野村氏招聘）	自主事業	
5月26日	平成16年度第1回通常理事会 （高知市：国際ホテル高知）		
5月28～29日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第1回行政連絡会（徳島市） 第1回専門部会・第1回協議会（穴喰町）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
6月2日	循環形社会を目指す県民懇談会（高知市）	高知県循環型社会推進課	岩瀬
6月4日	平成16年度第1回通常評議員会（研究所）		
6月9日	遊亀会会合 （中村市：高知県環境保全課と懇談）		田中
6月10日	土佐清水市立下の加江中学校 講師派遣		田中
6月12日	大月町立榎西小学校 講師派遣		中地
6月14日	循環形社会を目指す県民懇談会（高知市）	高知県循環型社会推進課	岩瀬
6月20日	高知県立足摺海洋館 講師派遣	足摺海洋館	田中
6月25日	循環形社会を目指す県民懇談会（高知市）	高知県循環型社会推進課	岩瀬
6月28日 ～7月2日	第10回国際サンゴ礁シンポジウム沖縄大会 （宜野湾市）	国際サンゴ礁 イニシアチブ	岩瀬
7月10日	大月町立榎西小学校 講師派遣		中地
7月12日	高知県西部地区地域教育指導主事研修会 （研究所）	高知県教育委員会	中地
7月18日	手結サンゴ調査	大手の浜なぎさの会	岩瀬・林
7月23～24日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第2回行政連絡会（徳島市） 第2回専門部会・第2回協議会（穴喰町）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
7月25日	CURRENT 17号発行	自主事業	
7月27日	大月町教頭会夏季研修会 講師派遣		中地
7月30日 ～8月1日	第三回黒潮生物研究所サマースクール （台風のため延期 8/7-9）	自主事業	中地
8月3～5日	中学生サマースクール（台風のため中止）	自主事業	中地

日付	内容	事業主体等	担当
8月7～9日	第三回黒潮生物研究所サマースクール実施	自主事業	中地
8月10日	土佐清水市立下の加江中学校 講師派遣		田中
8月22日	手結スノーケリング教室	大手の浜なぎさの会	岩瀬
8月30日	台風16号襲来：岩瀬社宅被害		
9月10日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第3回専門部会（徳島市）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
9月28～30日	モニタリングサイト1000 ・スポットチェック法講習会 （九州大学大学院理学府附属臨海実験所）	自然環境研究センター	岩瀬
10月5～9日	大月町非造礁性サンゴ相調査 （千葉県立博物館 立川氏招聘）	自主事業	
10月7日	サンゴ網採集（喜漁丸）	自主事業	
10月20日	台風23号襲来：取水パイプ破損		
10月22日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第4回専門部会・第3回協議会（宍喰町）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
10月25日	CURRENT 18号発行	自主事業	
11月11～14日	日本サンゴ礁学会 第7回大会（東京都）	日本サンゴ礁学会	中地
11月12～14日	第15回日本ウミガメ会議（福岡県津屋崎町）	日本ウミガメ協議会	岩瀬・田中
11月19日	宿毛市立咸陽小学校 講師派遣		田中
11月19～21日	牟岐・宍喰・手結スポットチェック	自然環境研究センター	岩瀬・林
11月30日	Kuroshio Biosphere発行	自主事業	
12月12日	奈半利町地域スポットチェック調査	天然資源活用委員会	岩瀬・林
12月16～17日	平成16年度第1回竜串自然再生推進調整会議 専門家会議・全体会議（土佐清水市）	環境省・西日本科学技術研究所	岩瀬・中地
12月21日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第5回専門部会（徳島市）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
1月6日	海水取水復旧		
1月11日	平成16年度竹ヶ島海中公園自然再生協議会 第4回協議会（宍喰町）	徳島県・ ニタコンサルタント	岩瀬
1月24～29日	国立科学博物館 筑波研究資料センター 昭和記念筑波研究資料館 標本整理	国立科学博物館	岩瀬
1月25日	CURRENT 19号発行	自主事業	
1月31日	循環型社会作りビジョン意見交換会 （高知市）	高知県循環型社会推進課	岩瀬
2月5日	幡多アカデミー：シンポジストとして出席 （大月町農村改善センター）	幡多に大学をつくる会	岩瀬
2月7日	大手の浜懇話会（夜須町中央公民館）	高知県港湾課	岩瀬
2月13日～3月6日	展示会「柏島周辺の自然 里海づくりと自然再生の取り組み＜人と自然の共生をめざして＞」 （高知市：牧野植物園）	花とふれあうみちづくりの会・黒潮実感センター・黒潮生物研究財団	中地

日付	内容	事業主体等	担当
2月14～20日	オーストラリア・ヘロン島 及びクイーンズランド大学視察	高知大学	岩瀬
2月25日	大手の浜スポットチェック	エイトコンサルタント	岩瀬・田中
3月10日	平成16年度第2回通常理事会 (大阪市：ステラケミファ本社)		
3月11～13日	海辺の環境教育フォーラム2005 (国立室戸少年自然の家)	海辺の環境教育フォーラム2005実行委員会	中地
3月18日	平成16年度第2回竜串自然再生推進調整会議 (土佐清水市)	環境省・西日本科学技術研究所	岩瀬・中地
3月19日	平成16年度第2回通常評議員会(研究所)		

事業の内容

1 研究関係

(1) 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

研究所地先におけるサンゴ産卵状況

ミドリイシ属 8 種の産卵を確認した。

CURRENT 5(3):2-4 に結果を報告した。

(クシハダ)ミドリイシ生活史全域にわたる飼育

相次ぐ台風の襲来による停電や取水
管破損によって、平成 15 年度及び 16
年度に採卵し水槽内で飼育していたク
シハダミドリイシ幼体は全滅した。し
かし今年度から飼育を始めたエンタク
ミドリイシ幼体はトラブルにもかかわ
らず生残り、10 月下旬からは一部を地
先の海に垂下して飼育継続中。3 月末
時点で 5mm 程度に成長した幼体が 200
群体程度生残している。6 月 28 日～7
月 2 日に沖縄県宜野湾市で開催された
10th International Coral Reef Symposium
でこれまでの研究成果をまとめてポス
ター発表を行った。

クシハダミドリイシ幼体の成長

平成 14 年の受精卵から得られたサ
ンゴ幼体 2 群体を海に放流して成長を
観察している。2 群体が生残り、大
きい方は 1 月現在直径 44mm、頭頂



体数 72。CURRENT 5(4):6-7 に経過を報告した。

着生基盤の材質再検討

鋼線を試したが、良好な結果は得られなかった。

クシハダミドリイシ幼体の栄養に関する研究

今年度得られた幼体を用い、プランクトンや溶存有機物の有無による成長の差を見る実験を行った。明らかな差が見られず、次年度継続して実験を行う。

受精卵の冷凍保存技術の研究

超急速冷凍法を試みたが、生残しなかった。次年度、高知大学の田口先生と共同で耐凍剤や培養液を工夫する。

(2) ウミガメ関係

大岐の浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況の調査及び産卵環境の保全

土佐清水市大岐の浜におけるウミガメの上陸・産卵状況調査を継続した。平成 16 年度上陸回数は 13 回、産卵回数は 8 回、3 頭に標識を装着した。台風による卵流失、放流会のための卵移植により、自然孵化卵はなし。

人工衛星によるアカウミガメの行動追跡

産卵期前に雌のアカウミガメを捕獲してアルゴス発信器をつけて放流し、産卵前のアカウミガメの行動追跡を行う予定だったが、適当なサンプルが入手できず、今年度は中止した。

大敷網に混獲されるウミガメの調査

定置網において混獲されたアカウミガメ 28 頭に標識を装着して放流し、3 件の再捕獲情報が得られた。

四国の海岸環境とウミガメの産卵との関係に関する研究

平成 13～15 年度に調査した四国南岸の海岸環境とウミガメの産卵状況について、CURRENT 5(4):2-5 に公表した。

アオウミガメの消化管内容物に関する研究

平成 14～15 年度に採取した 8 個体のアオウミガメ消化管内容物を分析し、四国南西岸のアオウミガメの食性について検討した。11 月 12～14 日に福岡県津屋崎町で開催された第 15 回日本ウミガメ会議でポスター発表を行った。

(3) 動植物相関係

大月町海域造礁サンゴ相調査

5 月に串本海中公園センターの野村恵一研究員を招聘し、研究所周辺を中心に造礁サンゴ相の調査を行った。結果の一部は CURRENT 5(2):2-3 に速報として掲載したが、正式な報文は次年度 Kuroshio Biosphere に掲載予定。

大月町海域非造礁サンゴ相調査

10 月に千葉県立中央博物館分館海の博物館の立川浩之研究員を招聘し、大月町海域の非造礁サンゴ相の調査を行った。調査の一環として地元漁師に依頼してサンゴ網漁を実施した。サンゴ網調査には、和歌山県立自然博物館及び東京大学から八放サンゴ類の研究者も参加した。

四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入状況調査

東海大学海洋学部横地研究室と協同で宇和海から足摺海域に至る広い海域の造礁サン

ゴ類分布状況、及び幼生の加入状況の調査を行った。調査結果は東海大学 4 年生の卒業論文としてまとめられた。3 年程度継続調査を行う予定。

その他

その他、海藻類と棘皮動物を中心に研究所周辺海域で採集を行い、標本として整理・保存し、動植物相の基礎資料づくりを行っている。

(4) その他

ウニを除去することにより藻場を復元する実験

大月町周防形と古満目の 2 ヶ所の調査地において、平成 14 年度より継続してウニを除去と海藻の生育状況調査を実施し、実験開始から 2 年半が経過した。実験は継続中だが、いわゆる藻場の回復に向かう兆候は見られない。次年度、一応の整理を行い、実験を継続するか否かを含め検討を行う予定。

相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究

国立科学博物館相模灘調査実行委員会が主催して行っている標記研究に、八放サンゴ亜綱(ヤギ類)担当館外研究者として継続参加している。次年度報告書提出の予定。

日本産ヤギ類の整理・再検討

東京大学総合博物館、京都大学瀬戸臨海実験所の標本に続き、国立科学博物館筑波研究資料センターにある昭和記念筑波研究資料館の標本整理を行った。今年度、昭和記念筑波研究資料館の標本整理が終わり、京都大学瀬戸臨海実験所の標本整理が終わった段階で全体を通した再検討を行う予定。

2 受託調査・事業等

(1) 平成 16 年度竜串地区自然再生推進計画調査

発注者：環境省自然環境局 山陽四国地区自然保護事務所

内容：竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系再生方策を策定するための調査。

陸域は(株)西日本科学技術研究所が、海域は当財団及び東京久栄(株)が受注した。

期間：平成 16 年 5 月～平成 17 年 3 月

(2) 平成 16 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域サンゴ礁モニタリング業務

発注者：財団法人 自然環境研究センター

内容：環境省が実施しているモニタリングサイト 1000 事業のサンゴ礁モニタリングのうち、四国沿岸海域のモニタリング調査

期間：平成 16 年 10 月～17 年 2 月

(3) 平成 16 年度奈半利町地域サンゴモニタリング調査

発注者：天然資源活用委員会

内容：高知県港湾課から奈半利町の NPO に委託した奈半利町地域のサンゴの利活用に係る調査研究の一環として行われたモニタリング調査

期間：平成 16 年 12 月～17 年 2 月

(4) 手結サンゴ分布調査

発注者：株式会社エイトコンサルタント

内 容：高知県港湾課から委託された調査研究の一環として行われたサンゴのモニタリング調査

期 間：平成 17 年 2 月

3 啓蒙・広報活動

(1) 第三回黒潮生物研究所サマースクール - きみも小さな研究者 -

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

共 催：大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会

期 日：平成 16 年 7 月 30 日～8 月 1 日予定だったが、台風襲来のため 8 月 7～9 日（2泊3日）に変更

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県佐賀町、大方町、土佐清水市、大月町、宿毛市、愛媛県一本松町の小学 4～6 年生 18 名（当初予定では定員 40 名に対して定員を上回る申し込みがあったが、台風襲来のため延期した結果、半数程度に減少した）

主なプログラム：拾いもの芸術祭、磯の生き物観察、ちょんがりクイズラリー、飯盒炊さん、テントで宿泊、海水浴、肝だめし、キャンプファイアー、感想文等

(2) 第二回黒潮生物研究所中学生サマースクール

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

共 催：大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会

期 日：平成 16 年 8 月 3～5 日予定だったが、台風襲来のため中止した。

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

(3) 機関誌「CURRENT」出版

4 月、7 月、10 月、1 月の 4 回、予定通り刊行した。平成 17 年 1 月現在、163 ヶ所に発送している。

(4) 紀要「Kuroshio Biosphere : Bulletin of the Biological Institute on Kuroshio」出版

11 月 30 日に第 1 号を出版した。国内 107 ヶ所、国外 92 ヶ所の教育機関・研究機関等に発送した。



(5) 展示会：大月町・柏島周辺の自然「里海づくりと自然再生の取り組み」

<人と自然の共生をめざして>

主催：ロードボランティア組織「花とふれあうみちづくりの会」・NPO法人 黒潮実感センター・財団法人 黒潮生物研究財団

期日：平成17年2月13日～3月6日

場所：高知県立牧野植物園 牧野富太郎記念館本館 五台山展示室

内容：大月町を拠点として自然環境を保全・再生する取り組みを行っている3つの組織がそれぞれの立場で行っている活動を紹介する企画展。期間内に、講演会や体験会なども催した。



(6) 海辺の環境教育フォーラム2005

主催：海辺の環境教育フォーラム2005 実行委員会

共催：独立行政法人国立少年自然の家 国立室戸少年自然の家・特定非営利活動法人 黒潮実感センター・海辺の環境教育フォーラム事務局

協力：財団法人黒潮生物研究財団 黒潮生物研究所・土佐の海洋教育を考える会

後援：環境省・国土交通省港湾局・高知県教育委員会・室戸市教育委員会

日時：2005年3月11日～13日

開催地：独立行政法人国立少年自然の家 国立室戸少年自然の家

定員：100名

実行委員：石川 侃（ダイビングショップ カアナパリ）・中地シュウ（財団法人黒潮生物研究財団）・神田 優（特定非営利活動法人黒潮実感センター）・川口 始（徳島県環境局循環型社会推進課）・宮繁啓司（高知県立高知海洋高等学校）・高橋哲也（高知県立高知海洋高等学校）・大谷俊彦（国立室戸少年自然の家）・青木康太郎（国立室戸少年自然の家）・小島あずさ（JEAN）・山中康司（NPO 法人日本安全潜水教育協会）・小松由美（東京YWCA 野外環境教育部）・古瀬浩史（海辺の環境教育フォーラム事務局）

内 容：室戸市内施設等見学、ミニクルージング、イルカセラピー見学、元遠洋マ
グロ漁船漁労長の講演、ワークショップ「海から森へ」、体験プログラム、
交流会 等

(7) 近隣の教育機関との連携等

大月町立 榎西小学校 総合的な学習の時間

期 日：平成 16 年 5 月 24 日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：磯の指名手配書づくり

土佐清水市立 下の加江中学校

期 日：平成 16 年 6 月 10 日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：ウミガメの生態とストランディング

大月町立 榎西小学校 総合的な学習の時間

期 日：平成 16 年 6 月 12 日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：テーマ別生き物調べ

高知県立足摺海洋館 イベント

期 日：平成 16 年 6 月 20 日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：高知の海を泳ぐウミガメ

大月町立 榎西小学校 総合的な学習の時間担当教員

期 日：平成 16 年 7 月 10 日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：生き物の調べ方（講義と討論）

高知県西部地区地域教育指導主事研修会

主 催：高知県教育委員会

期 日：平成 16 年 7 月 12 日

場 所：黒潮生物研究所

参加者：幡多地域教育指導主事、高知県教育委員会教育政策課職員（12 名）

テーマ：総合学習で環境教育を行う上での技術実習及び討論

2004 年度大月町教頭会夏季研修会

主 催：大月町教育委員会

期 日：平成 16 年 7 月 27 日

場 所：黒潮生物研究所

参加者：町内小学校の教頭（10 名）

テーマ：総合学習で環境教育を行う上での技術実習及び討論

土佐清水市立 下の加江中学校

期 日：平成 16 年 8 月 10 日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：子ガメの放流会

宿毛市立咸陽小学校 総合的な学習の時間

期 日：平成 16 年 11 月 19 日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：ウミガメが産卵に来る浜はどんな浜？

（ 8 ）委員等就任

足摺宇和海国立公園竜串自然再生推進計画調査 専門委員

設 置 者：環境省山陽四国地区自然保護事務所

調査担当者：(財)黒潮生物研究財団・(株)東京久栄・(株)西日本科学技術研究所

内 容：「 3 受託調査・事業等」の項参照

委 員：岩瀬

竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員

設 置 者：徳島県県民環境部環境局自然共生室

調査担当者：(株)ニタ・コンサルタント

内 容：徳島県の竹ヶ島海中公園地区で行われている自然再生推進調査のアドバイザー

委 員：岩瀬

循環型社会を目指す県民懇談会 メンバー

設 置 者：高知県 循環型社会推進課

内 容：高知県が作成している、循環形社会を創造にむけてのビジョン作成のためのアドバイザー

委 員：岩瀬

環境創造・生物共生型港湾整備方策 検討委員会 委員

設 置 者：(財)沿岸センター 自主研究

内 容：那覇港拡張工事にあたって新設が予定されている防波堤を、サンゴ群集が成立可能な構造にするための手法の検討

委 員：岩瀬

高知県文化環境アドバイザー

設 置 者：高知県

内 容：県の政策を推進するにあたって、文化環境に関する提案やアドバイスを
を行う

委 嘱 者：岩瀬

農林水産省環境相談員

設 置 者：農林水産省 農村振興局

内 容：農漁村の振興等に関する事業を行うに際して、環境等に関する相談を受け、事業の円滑かつ効果的な実施をサポートする

登 録 者：岩瀬（登録番号：39013）

（ 9 ）その他

遊亀会

平成 15 年度に設立された、ウミガメを語る会「遊亀会」の、事務局として事務連絡にあたっている。

幡多アカデミー 第2回 海を活かした地域づくり ～大月町～

主催：幡多に大学をつくる会・高知県企画振興部私学大学支援課

後援：高知大学、高知工科大学、高知女子大学、高知新聞社、朝日新聞社高知総局、毎日新聞社、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ

期日：2005年2月5～6日

場所：大月町農村改善センター・柏島公民館

参加者：5日定員200名、6日定員40名

内容：1日目のプログラムにシンポジストとして出席し、「藻が減って魚が無くなった」というタイトルで講演し、他のシンポジストとの討議を行った。



年報のHP上での公開

平成14年度より、年報記載事項を財団ホームページ (<http://www.kuroshio.or.jp>) に掲載・公開している。

4 業績

(1) 著作

黒潮生物研究財団紀要「Kuroshio Biosphere」Vol.1, November 2004

- ・Noro, T. Marine algae in the vicinity of Biological Institute on Kuroshio, Kochi Prefecture, Japan.
- ・Uchida, H. Actinologia Japonica (1). On the actiniarian family Halcuriidae from Japan.
- ・Uchida, H. Hesionidae (Annelida, Polichaeta) from Japan. I.

黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 5, No. 1 第16号 平成16年4月25日発行

- ・林 徹 クシハダミドリイシの飼育法について
- プラヌラから稚サンゴの飼育 -

- ・岩瀬文人 野間池採集記
- ・中地シュウ ウチワエビのフィロゾーマ

Vol. 5, No. 2 第17号 平成16年7月25日発行

- ・野村恵一 (串本海中公園センター)
大月町西泊地先のサンゴ群集の概要
- サモアミドリイシが群生する不思議な海域 -
- ・田中幸記 益野川災害復旧工事による河口周辺海域の生物への影響

・岩瀬文人 新顔の巻貝によるサンゴの食害

・中地シュウ 磯の指名手配書づくり

Vol. 5, No. 3 第 18 号 平成 16 年 10 月 25 日発行

・林 徹 「2004 年西泊発、ミドリイシ属サンゴの産卵事情」

・別所学・高橋結・阿蘇良介（東海大学海洋学部 4 年）
研究所での半年間をふり返って

・中地シュウ 今年の台風の記録

Vol. 5, No. 4 第 19 号 平成 17 年 1 月 25 日発行

・田中幸記 ウミガメの産卵から見た四国南岸の海岸環境 その 4
～植生帯および離岸堤・護岸について～

・林 徹 クシハダミドリイシの飼育法について
- 海への移植と稚サンゴの成長 -

・中地シュウ オニヒトデ

その他

・岩瀬文人 2004.03. 「6-2-4 四国」in:日本のサンゴ礁，環境省・日本サンゴ礁学会編
環境省発行 :266-276.

・Iwase, F. 2004.03. "6-2-4 Shikoku" in : Coral Reefs of Japan, edited by the Japanese Coral
Reef Society and Ministry of the Environment, published by Ministry of the
Environment. : 258-269.

・田中幸記 2004.06 黒潮生物研究所周辺での活動. マリントラクター，(5)

(2) 講演等

学会等

・Hayashi, T. and F. Iwase Artificial breeding method of *Acropora hyacinthus* (Scleractinia,
Cnidaria). 10th International Coral Reef Symposium, (Poster Presentation), 2004
June 28 ~ July 2

・Kimura, T., H. Hasegawa, T. Igarashi, M. Inaba, K. Iwao, F. Iwase, K. Kajiwara, T. Matsumoto,
T. Nakai, S. Nojima, K. Nomura, M. Nonaka, K. Oki, K. Sakai, K. Shimoike, K.
Sugihara, M. Ueno, Sh. Ueno, H. Yamano, H. Yokochi and M. Yoshida. Status
of Coral Reefs in Japan. 10th International Coral Reef Symposium, (Poster
Presentation), 2004 June 28 ~ July 2

・中地シュウ・岩瀬文人 高知県土佐清水市竜串湾における自然再生事業について. 日
本サンゴ礁学会第 7 回大会（東京都）2004.11.11 ~ 14

・岩瀬文人・中地シュウ・中林孝之・小野正順 高知県土佐清水市竜串湾における自然
再生事業について ~平成 13 年度水害の濁り拡散及び堆積土砂の移動~.
日本サンゴ礁学会第 7 回大会（東京都）2004.11.11 ~ 14

・田中幸記 足摺海域でストラレンジングしたアオウミガメの消化管内容物. 第 15 回日
本ウミガメ会議（福岡県津屋崎町）2004.11.12 ~ 13

(3) 調査報告書等

・相模灘の刺胞動物相についての研究，相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的
比較に基づく環境変遷の解明の調査研究（平成 13 ~ 17 年度） - 平成 15 年

度調査研究報告 - , 2004.11.02 独立行政法人国立科学博物館 相模灘調査
実行委員会 (並河洋・平野弥生・今原幸光・岩瀬文人・柳研介・小川数也)

- ・手結のサンゴ生育状況, 2004.07 財団法人黒潮生物研究財団 (大手の浜なぎさの会)
- ・平成 16 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域サンゴ礁モニタリング業務報告書, 2005.02 財団法人黒潮生物研究財団 (財団法人自然環境研究センター)
- ・平成 16 年度奈半利町地域サンゴモニタリング報告書, 2005.02 財団法人黒潮生物研究財団 (天然資源活用委員会)
- ・手結サンゴ分布調査報告書, 2005.02 財団法人黒潮生物研究財団 (株式会社エイトコンサルタント)
- ・平成 16 年度竜串地区自然再生推進計画調査報告書, 2005.03 財団法人黒潮生物研究財団 (環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所)
- ・平成 15 年度サンゴ移植事業報告書, 2005.03 財団法人黒潮生物研究財団 (宇和海海中資源保護対策協議会)

(4) 研究所利用者の業績

- ・佐々木奈美 2005.03 造礁サンゴ類浮遊期幼生の着生および変態に対する細菌皮膜の影響. 高知大学農学部栽培漁業学科 卒業論文
- ・高橋結・阿蘇良介・別所学 2005.03 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入. 東海大学海洋学部 卒業論文
- ・Keshavmurthy Shashank Vishwanath 2005.03 Studies on the effect of environmental and biological parameters on coral physiology and ecology. Master thesis of the Kochi University.

5 研究所利用者

下記のとおり研究所の利用者があった。

大学助教授	2 名	延べ	7 日人
大学研究員	1 名	延べ	1 日人
博物館等研究員	3 名	延べ	14 日人
大学院生	5 名	延べ	68 日人
大学生	12 名	延べ	649 日人
専門学校生	2 名	延べ	16 日人
合計	25 名	延べ	755 日人

利用目的別にまとめると、

大学院研究	3名	延べ	46日人
卒業研究	5名	延べ	560日人
その他研究	10名	延べ	63日人
企業実習	4名	延べ	50日人
アルバイト	1名	延べ	20日人
その他	2名	延べ	16日人
合 計	25名	延べ	755日人

だった。

6 寄 附

平成15年度には、個人5名、法人3団体からご寄附をいただき、寄附金総額は26,110,000円だった。謹んで御礼申し上げます。

なお、この寄附金総額は個人、団体からいただいた実質の総額であります。第5期決算書類では、寄附金収入が29,466,967円となっておりますが、その差額3,356,967円は特別会計からの寄附金分であります。これは一般会計繰越欠損金に対するみなし寄附金で、特別会計の黒字分を一般会計に寄附したものであります。